

地域医療連携室との協力

～薬剤師ができる事～

日之影町国民健康保険病院 甲斐裕美

「地域医療連携の手引き」令和2年4月20日 Ver.1

「病院完結型」医療から「地域完結型」医療へ

保険医療機関の薬剤師は、地域における自施設の役割を踏まえ
医薬品適正使用のさらなる推進と関係する保険薬局、他の保険
医療機関との連携を一層進めなければならない

地域医療連携の目的

患者の薬物療法に関する情報を相互に提供し、医療安全の確保に資することである

双方の薬剤師が共通の認識を持ち、患者情報を確実に引き継ぐ

全ての患者を対象として、すべての医療従事者との間で構築

「地域医療連携の手引き」より

薬物療法に必要な情報

1. 患者に関する情報

基本情報

かかりつけ医・かかりつけ薬剤師

既往歴・輸血歴・アレルギー・副作用歴

生活上の情報（喫煙・嚥下・常用の市販薬・健康食品）

「地域医療連携の手引き」より

薬物療法に必要な情報

2. 処方に関する情報

処方歴・薬歴

調剤に関する特記事項

(一包化・簡易懸濁法・日常の管理方法)

服薬方法、投与間隔・投与方法に注意が必要な医薬品

治療経過に関わる特記事項

「地域医療連携の手引き」より

薬物療法に必要な情報

3. その他の必要な伝達事項

病名告知の有無患者の理解度など服薬指導上注意してほしい事項

服用方法や投与間隔投与方法などに留意してほしい医薬品

副作用の兆候、処方変更後の状態など継続して確認してほしい事項

腎機能、TDMデータなど注意してほしい検査値

「地域医療連携の手引き」より

地域医療連携のためのツール

1. お薬手帳

既往歴・アレルギー歴・副作用歴

受診毎の処方内容などの時系列の記録

他の医療従事者が見ることで薬の重複等の回避が可能

意義を理解されるよう患者への指導が必要

「地域医療連携の手引き」より

地域医療連携のためのツール

2. 施設間情報連絡書（薬剤管理サマリー）

入退院時に活用

入院時：お薬手帳の情報が十分でないときに依頼

退院時：継続的な薬物療法を支援する目的

地域医療連携のためのツール

3. 服薬情報提供書（トレーシングレポート）

保険薬局薬剤師からの施設間情報連絡書

即時性は低いものの「処方した医師への提供が望ましい」と

判断された内容を記載

「地域医療連携の手引き」より

地域医療連携の導入の実際

連携する施設間の薬剤師双方の意思疎通が重要

日常業務をテーマとする勉強会の開催(きっかけの一つ)

コミュニケーション構築・連帯感を深める

連絡会の立ち上げ

地域医療連携体制の構築・運用に発展

「地域医療連携の手引き」より

保険医療機関における地域医療連携の実際

1. 外来での運用例

内服薬の記録だけでなく外来投与の注射薬にも

外来化学療法を受ける患者の増加

綿密な情報共有が重要

トレーシングレポートの活用を率先する事で院内の医療従事者との
連携が円滑になる

「地域医療連携の手引き」より

保険医療機関における地域医療連携の実際

2. 入院時での運用例

処方薬・副作用・アレルギー情報など薬歴の情報

お薬手帳の情報は補足的

持参薬の確認作業の実施

入院前の施設に情報の確認

「地域医療連携の手引き」より

保険医療機関における地域医療連携の実際

3. 退院時での運用例

処方薬の内容の変化

入院中の薬物療法、経過について

お薬手帳・施設間情報連絡書の利用

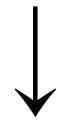
退院時カンファレンスで情報提供

「地域医療連携の手引き」より

入院期間は短縮傾向にある

病床の機能分化が進む

複数の保険医療機関を経由して自宅へ戻る



患者への安全で良質な薬物療法の提供を担保するため

シームレスな地域連携の構築が重要

「地域医療連携の手引き」より

地域医療連携を充実させるために

地域連携部門の活用

保健医療機関同士が情報のやり取りを行う部署

患者の生活に関する情報等も把握

照会元・かかりつけ病院へ照会

急ぎの情報収集・・・地域連携部門を活用

「地域医療連携の手引き」より

教育・研修体制について

薬剤師同士の連携に関して（具体例）

トレーニングレポート
ハイリスク薬の管理
無菌調製実技支援
経腸栄養管理
感染管理対応 等々

「地域医療連携の手引き」より

当院の取組について